市民のWA

赤い椅子プロジェクト

吉祥寺で赤い椅子を見つけたら、座ってひと息ついてみましょう。運命の人を結ぶ赤い糸のように、あなたと「まち」の新しい関係を結んでくれるかもしれません。

左から水野卓さん、小松由美さん、
共同代表・加曽利千草さん、共同代表・加藤研介さん。

使われなくなった椅子を蘇らせ吉祥寺のまちへ送り出す

アトレ吉祥寺2階、西改札口前の一角に鮮やかな赤色の椅子が置かれています。誰かを待っている人、買い物の途中らしい人、本を読んでいる人、子どもと一緒に休んでいる人…。それぞれ腰掛けているのは、形も大きさもさまざまな赤い椅子。椅子は「物語」とともにここに運ばれ、誰もが自由に腰掛けられる椅子として、行き交う人に利用されています。

使われなくなった椅子を「集め」、赤色に「塗り」、吉祥寺にある公共施設や商業施設に「設置」する活動を進めているのが、赤い椅子プロジェクトです。「少しの間だけでも座れる場所があって、吉祥寺のまちと人をつなぐツールになれば」という発想から生まれ、2013年より始動しました。「物語」とは、かつての持ち主と椅子との物語。「毎朝の出発点だった椅子」「Jさんの椅子」などのストーリーを記したシールを椅子に貼って送り出し、椅子にまつわる思いも共有しながら利用してもらおうという試みです。

完成した「赤い椅子」を街中の協力店舗に設置。

一つひとつの椅子には持ち主だった人との物語が貼られている。

集まった椅子に赤い塗装を施すワークショップを開催。

プロジェクトに賛同した方々から寄付していただいた椅子。

人とまち、過去と未来をつなぐシンボルとしての赤い椅子

椅子に座ってひと息つけば、人は誰でも笑顔になるもの。「座れる場所があってうれしい」と利用者の方たちからの反応はよく、また、座った人同士、あるいはお店と利用者との間で会話が生まれるなど、コミュニケーションのきっかけにもなっています。3年前からは、子どもたちに色を塗ってもらうワークショップも始め、椅子を中心に「まち」と「人」のつながりはさらに深く広がっています。

一方でこのプロジェクトは、循環型社会の一つの提示でもあります。使われなくなった物に手を入れて蘇らせ、再利用する。それは単なるリユースではなく、人の思いをつなぎ、過去と未来という時間をもつなぐもの。そのシンボルが吉祥寺の赤い椅子なのです。

赤い椅子プロジェクト

2013年、「椅子でつなぐ街吉祥寺」で「第1回吉祥寺コミュニティデザイン大賞」大賞を受賞。これを具現化するプロジェクトとして同年発足。現在のメンバーは9人。プロジェクトを通じてまちが楽しくなる活動を広げている。

赤い椅子プロジェクト
http://akaiisu.blogspot.jp/